

Daily Market Report

ナフサ C&F JAPAN 評価値(ドル/MT)

C&F JAPAN 評価値

5月後半着	1,034.00	(1.00)
6月前半着	1,029.00	(1.50)
6月後半着	1,025.00	(2.00)
7月前半着	1,022.00	(2.50)
7月後半着	1,019.50	(2.88)

OPEN SPEC NAPHTHA スポット取引プレミアム評価

(千葉到着ベース)	COUNT30日前	COUNT45日前
5月前半着	+10.00	+5.50
5月後半着	+8.50	+5.00
6月前半着	+6.25	+3.50
6月後半着	+4.50	+2.25

算出時の原油価格(ドル/bbl)

MONTH	MAY
WTI	105.94
BRENT	120.64

本日午前 10 時時点での理論上の計算値、()内は前営業日の評価値との比較

[マーケットコメント]

12 日のナフサ C&F JAPAN は 1042.875 ドルと反落、クラックスブレッドは横ばい、弱含みとなった欧州市場の地合いを引き継ぎ、アジア市場もややベアなムードで始まった。利食い売り先行から原油相場は下落したが、依然高値圏で推移している。ナフサ価格も下落はしたものの、未だ 1000 ドルを大幅に超えている水準にあることから割高感がある。また、日本では大きな余震が続いていることや福島原発の事故の深刻度がレベル 7 に引き上げられたことから、景気に対する懸念が再びクローズアップされている。一方、アジア市場における期近玉はタイトな状況が続いている。5 月前半到着玉をまだ調達できていないエンドユーザーが調達に動いたが、売り手が見られていない。高値で成約されたとの噂も流れており、ナフサ供給の不足状況がより鮮明となった。ブラツタイムでは、欧州市場がやや強めに始まったことで買い手優位となったが、終盤にかけて売り手も現れ、クラックスブレッドは横ばいとなった。本日のアジア市場は、欧州市場が大きく買われたことを受け、買い手優位の展開が想定される。

ナフサ MOF / 国産ナフサ価格予想値および評価値

	ナフサ MOF 価格				国産ナフサ価格	
	ドル/MT	ドル/円	円/KL	速・確報値/(前日比)	予想値/評価値	速報値/(前日比)
10-Oct	700.07	83.42	40,587	40,712		
10-Nov	747.36	81.39	42,273	42,222		
10-Dec	796.85	83.61	46,305	46,634		
10-4Q			43,079	43,101	45,100	45,100
11-Jan	857.45	82.91	49,410	49,202		
11-Feb	882.61	82.33	50,505	50,204		
11-Mar	891.37	82.49	51,101	(1,032)		
11-1Q			50,120		52,100	(400)
11-Apr	982.44	82.45	56,295	(3)		
11-May	1,026.48	84.02	59,937	(262)		
11-Jun	1,033.23	84.03	60,341	(369)		
11-2Q			58,858		60,900	(200)
11-Jul	1,029.49	84.05	60,134	(393)		
11-Aug	1,026.77	84.06	59,987	(407)		
11-Sep	1,024.54	84.08	59,871	(421)		
11-3Q			59,997		62,000	(400)
11-Oct	1,022.50	84.11	59,769	(440)		
11-Nov	1,020.50	84.13	59,671	(468)		
11-Dec	1,018.50	84.16	59,575	(494)		
11-4Q			59,672		61,700	(400)
12-Jan	1,016.34	84.20	59,475	(516)		
12-Feb	1,013.46	84.24	59,338	(557)		
12-Mar	1,009.62	84.29	59,146	(626)		
12-1Q			59,320		61,300	(600)

予想値は太字での表記、MOF(国産)価格の評価値は予想値ではなく本日午前 10 時時点での理論上の計算値

(前日比)は前営業日の予想値および評価値との比較、換算比重は 0.695、為替レートは実勢為替相場に基づいた通関レートおよび為替先物マーケットから算出

[ナフサ MOF/国産ナフサ価格予想値および評価値コメント、マーケットコメント]

本日午前 10 時時点の 11 年 1Q 国産ナフサ予想値は 5 万 2100 円と予想値を 400 円下方修正。震災の影響による 3 月のナフサ輸入数量の減少を勘案し、1-3 月の輸入数量比率を 1.00:1.00:0.85 に変更。本日のナフサ C&F JAPAN 評価値は下落が想定され、為替通関レートも円高に振れており、MOF 評価値は下落が見込まれる。11 年 2Q 国産ナフサは前営業日比 200 円安の 6 万 0900 円の評価。

11年1Q国産ナフサ予想値および評価値(円/KL)



11年2Q国産ナフサ予想値および評価値(円/KL)



太線は弊社予想値および評価値の推移、細線はナフサ C&F JAPAN に為替および比重(0.695)を乗じた数値の推移

Daily Market Report

原油・石油製品相場(前営業日)

Crude Oil(ドル/bbl)

		close	chg
NYMEX / WTI	MAY	106.25	(3.67)
	JUN	106.97	(3.60)
ICE / BRENT	MAY	120.92	(3.06)
	JUN	120.43	(2.99)

Oil Products(セント/gal)(ドル/MT)

		close	chg
NYMEX / RBOB	MAY	316.41	(3.64)
NYMEX / Heating Oil	MAY	317.26	(7.99)
ICE / Gas OIL	APR	1,050.50	(±0.00)

[マーケットコメント]

12日の原油相場は、ロンドン市場、NY市場ともに大幅続落。原油高が世界景気の回復に悪影響を及ぼすとの見方や、米金融大手による上昇トレンドの転換予測を背景に売りが集まり、大幅な下落となった。WTI期近5月限は約2週間ぶりの安値水準へと値を沈めるなど、高値調整が進んでいる。

前日、国際通貨基金(IMF)が世界経済の下振れリスクのひとつとして原油高について警告していたが、この日は国際エネルギー機関(IEA)が原油価格の上昇は世界経済に打撃を与えると警告した。景気回復の遅れによりエネルギー需要の伸びが鈍化するとの見方が広がり、前日の軟調地合いを引き継ぎ売りが先行する展開となった。また、米金融大手ゴールドマン・サックスが、前日の手仕舞い売り推奨に続き、上昇から下落へとトレンドが転換したと予測したことが売り材料視された。同社はブレント原油価格について、今後105ドルに向けて下落すると予測している。前週末までの上昇に対する反動もあり、持ち高解消を進める動きが加速し、売りが売りを呼ぶ展開から急速に値を崩す展開となった。

トピックス

「ポリマー輸入品(アジア・スポット市況連動)国内需要家渡し想定値」

アジアのポリマー市況はまちまち。オレフィン系ポリマーは方向性を欠いた動きとなっている。スチレン系ポリマーはABSが続落するもポリスチレン(PS)は切り返している。

オレフィン系ポリマーは小幅まちまち。ポリエチレン(PE)は、C&F JAPAN 想定値ベースで前週比15ドル安から10ドル高と、方向感を欠いた動き。原油やナフサ市況は極めて強い動きとなっているが、そこから派生する石油化学製品市場は総じて上値重い商状となっており、PEも同様にセンチメントは弱い。震災に伴うスポット購買は一巡し、潤沢な在庫、需要の伸び悩みなどを理由に軟調な展開となる可能性が高い。一方のPPは変わらず、定修による供給減少見通しから下値を積極的に売り込む向きは少ないものの、日本の輸入需要については織り込んだ感があり、買い気も乏しい状況。新規材料が出現するまでは、様子見から方向感を欠いた展開が見込まれる。

スチレン系ポリマーは製品毎に異なる動き。ポリスチレン(PS)は、前週比10-30ドル高と切り返している。原料スチレンモノマー(SM)市況の反発に連れ、買いが先行している。ただし、独自の需給ファンダメンタルズから上振れるだけの材料を欠いている点は、念頭に入れておきたい。一方のABS市況は軟調地合い継続から前週比20ドル安と続落し、1月上旬以来の安値水準へと値を崩している。季節要因から需要が伸び悩むなか、原料高からマージンが圧縮傾向にあり引き合い低下が懸念される。ここにきて原料ブタジエン供給が増えているとの見方もあり、先安期待から買い控えの動きも想定され、目先は下値指向の流れを継続する公算が大きい。

なお、国内需要家渡し想定値に関しては、アジア市況がまちまちとなるなか、為替通関レートが前週から1.50円の円安ドル高と円安に振れたことが影響し、軒並み値を上げることが想定される。(想定為替レート:1ドル=85.01円)

ポリマー	C&F Japan(主要港) 5月着(ドル/MT) 想定算出基準	DDP(主要港から50km圏内大口需要家渡し)5-7月渡し(円/kg)			
		20ft. コンテナ直送		4tトラック配送	
		特惠国産	非特惠国産	特惠国産	非特惠国産
PP (HOMO)	1,680 (±0)	155 (3)	163 (3)	161 (3)	168 (3)
PP (COPOLYMER)	1,730 (±0)	158 (3)	162 (3)	164 (3)	168 (3)
LDPE	1,715 (±0)	158 (3)	166 (3)	164 (3)	172 (3)
LLDPE (Comonomer 5%以上)	1,415 (15)	130 (1)	133 (1)	136 (1)	139 (1)
HDPE	1,410 (10)	131 (3)	137 (3)	136 (3)	143 (3)
GPPS	1,570 (10)	145 (3)	152 (4)	151 (3)	158 (4)
HIPS	1,740 (30)	160 (5)	164 (6)	166 (5)	170 (6)
ABS	2,280 (20)	209 (2)	214 (2)	214 (2)	219 (2)

()内は前週の想定値との比較

ポリオレフィン:17MTパレット付き(20ftコンテナあたり)X6コンテナ(輸入)、PS・ABS:17MTパレット付き(20ftコンテナあたり)X2コンテナ(輸入)、いずれもフリータイム内搬出、20ftコンテナ直送(輸入後2週間以内)は、海上保険、関税、CHC、D/O FEE、通関料、乙仲手数料、コンテナドレージ、商社マージン他諸経費等を考慮し算出

4tトラック配送は、倉庫保管期間を約3ヶ月とし、上記に加え4t車チャーター料、デバン入出庫料、倉庫保管料等を考慮し算出
経済連携協定のある国において、関税率がWTO協定、GSP等と異なるものはこの限りではない

「3月のエチレン用輸入ナフサ価格、前月比358円高 = 経済産業省」

経済産業省製造産業局化学課は13日、3月のエチレン用輸入ナフサ通関実績を発表した。同統計によると、3月のエチレン用輸入ナフサ価格は1KLあたり5万0498円と前月から358円上昇した。6ヶ月連続の上昇。輸入数量は前月比33万6869KL減(16.3%減)の172万4515KL。

	輸入数量(KL)	輸入数量(トン)	輸入金額(ドル)	単価(ドル/トン)	為替レート(円/ドル)	単価(円/KL)
2月実績	2,061,384	1,429,212	1,255,357,146	878.4	82.3	50,140
3月実績	1,724,515	1,193,398	1,057,462,109	886.1	82.4	50,498

(出所:経済産業省)

本レポートに掲載されている情報は、時間の経過または様々な後発事象によって予告なしに変更される可能性がありますので、あらかじめご了承ください。なお、掲載された情報は信頼できると判断した情報源に基づき作成したものです。株式会社アメリクス・エナジー・コム(以下、弊社)はこの完全性や正確性に関する責任を負いません。また、本レポートに示した見解および予測は必ずしも適切かつ妥当なものとはならず、本レポート作成日における弊社の判断です。本レポートに掲載されている内容の著作権は、原則として弊社に帰属いたします。

Daily Market Report

「PPG、POP 値上げへ = 三井化学」

三井化学は 11 日、ポリプロピレングリコール(PPG)とポリマーポリアル(POP)の価格改定を実施することを明らかにした。価格改定幅はともにプラス 30-50 円/kg 以上で、改定時期は 4 月 18 日出荷分より。今年 1 月に価格改定を打ち出したがその後も原材料価格が上昇し、それに伴いコストが増大しており、安定供給のためにも価格改定をせざるを得ないと判断した。

「合成ゴムなど値上げへ = JSR」

JSR は 11 日、合成ゴムや熱可塑性エラストマー、液状ゴムのエマルジョン各製品について価格改定を行うことを明らかにした。対象製品と値上げ幅は、SBR がプラス 32 円/kg、BR がプラス 38 円/kg、NBR がプラス 37 円/kg、EP がプラス 26 円/kg、IR がプラス 31 円/kg、一般産業用ラテックスがプラス 22 円/kg、RB がプラス 38 円/kg、DNR がプラス 37 円/kg、SIS がプラス 27 円/kg、TR がプラス 28 円/kg で、改定時期は 5 月 1 日納入分から。一部製品を除き、今年 2 月にも値上げを打ち出したばかりだが、一段の原燃料高への対応が必要となった。

「塗料用樹脂値上げへ = DIC」

DIC は 11 日、塗料用樹脂全般について価格改定を行うことを明らかにした。値上げ幅はプラス 25 円/kg 前後で、改定時期は 4 月 18 日出荷分より。塗料用樹脂の各種原料は、原油やナフサ価格の再高騰に伴い大幅に上昇しており、塗料用樹脂事業の採算性が悪化している。これまで原料の値上がりによるコストアップ分を自助努力により吸収してきたが、現状では自助努力の限界を超えており、原料確保および製品安定供給のためにも製品価格へ転嫁せざるを得ないと判断した。なお、今後の原料価格や各種コストのさらなる上昇によっては、再度値上げを実施する方針。

「米国ポリシリコン工場着工 = ワッカーケミー」

独化学大手ワッカーケミーは、太陽光用ポリシリコン需要増に対応し、ポリシリコン生産能力を大幅拡張する。先週、米国テネシー州にある 1 万 5000 トン/年の新規ポリシリコンプラントの着工式を行った。2013 年第 4 四半期に完工する予定。同社は、3 月にドイツのブルクハウゼンとマインクッツにある第 1 工場および第 2 工場のポリシリコンプラントの増設を発表しており、ドイツ国内だけで 1 万トンのポリシリコン生産能力を増強し、2012 年第 4 四半期に完工する予定である。これらの新增設が完了すると、米国およびドイツのポリシリコンの生産能力が 6 万 7000 トン/年へと拡大する。

「本家に家宅捜索 = 錦湖石油化学」

韓国メディアによると、12 日に検察捜査官が韓国化学大手の錦湖石油化学の本社を訪問し、会計帳簿と会計ファイルが保存されたハードディスクを押収したという。検察は、錦湖石油化学が請負業者との取引において、コストを過剰支給し差額を取り戻す方法で秘密資金を作っていた証拠を握り、錦湖石油化学や関連する複数の取引先への捜査に着手したと伝えられている。昨年 3 月の経営復帰以来、合成ゴム産業の好況に支えられ、史上最大の実績を記録したが、経営危機に陥ることが予想される。

「2011 年の日本の石油需要見通しを上方修正 = IEA」

国際エネルギー機関(IEA)は 12 日、4 月の石油市場月報を発表した。2011 年の世界石油需要見通しは日量 8936 万バレルと前月見通しを据え置いた。日本の石油需要見通しは同 445 万バレルと、前月見通しから同 15 万バレルの上方修正。前月見通しでは前年比 12 万バレルの減少を見込んでいたが、福島原発事故を受けて火力発電への代替需要増が見込まれ、また震災からの復興需要でエネルギー消費が増加するとし、今回の見通しでは同 3 万バレルの増加へと上方修正した。世界全体としては、Non-OECD 諸国で下方修正が見られた一方で、日本の需要見通しの上方修正を受け OECD 全体で同 9 万バレルの上方修正となったことが相殺。2010 年については同 8793 万バレルと同 1 万バレルの小幅上昇修正。これにより需要の伸びは前年比で同 143 万バレル増(1.6%増)と見通している。一方、供給面については、リビアの産油量が通常に比べ約 70%減少し、石油輸出国機構(OPEC)全体としての供給量も落ち込んでいるという。なお、100 ドルを超え高騰し続けている原油価格について IEA は、世界経済に打撃を与えると警告している。

「2011 年原油価格見通し、106.38 ドル = EIA」

米エネルギー情報局(EIA)は 12 日、4 月の短期エネルギー見通しを発表した。同見通しによると、2011 年の世界石油需要は日量 8820 万バレルと前月見通しを据え置いた。需要の伸びは前月見通しの同 151 万バレルから同 152 万バレルへと小幅上方修正。なお、2012 年については同 8976 万バレルと見通している。向こう 2 年、中国やブラジル、中東地域の Non-OECD 諸国での需要増が、引き続き世界全体の需要の伸びを牽引するという。OECD 諸国については、欧州地域や日本などで需要の伸びが鈍化するものの、北米地域の伸びが相殺するとみている。供給面については、2011 年の非石油輸出国機構(Non-OPEC)の産油量は日量 5217 万バレルと前月見通しから同 42 万バレルの大幅情報修正。2012 年については同 5240 万バレルと見通している。一方 OPEC の原油生産量見通しは、2011 年に日量 2957 万バレル(前年比 13 万バレル増)と前月見通しの同 2955 万バレルから小幅に上方修正している。中国が同 14 万バレル、ブラジルが同 17 万バレル、そして旧ソ連が同 27 万バレルの生産増加が期待される。2012 年は同 3071 万バレル(同 114 万バレル増)と増加すると予測しているが、前月見通しの同 3145 万バレルからは大幅な下方修正。中国が同 14 万バレル、ブラジルが同 11 万バレルと引き続き増加するなか、カナダが同 18 万バレル増加すると予測。一方で、北海油田での生産は、今年が同 11 万バレル、来年は同 23 万バレル減少するとみている。OPEC の生産量については、今年が同 10 万バレルの増加にとどまるが、来年は同 110 万バレル増加すると見通し。余剰生産能力は、2010 年末の同 420 万バレルから 2011 年末には同 340 万バレル、2012 年末には同 270 万バレルへと低下するという。

なお、原油価格については、2011 年通年では 106.38 ドルと前月見通しの 101.77 ドルから上方修正した。2012 年は 113.50 ドルと見通している。

Daily Market Report

「2011年世界石油需要見通し、小幅上方修正 = OPEC」

石油輸出国機構(OPEC)が12日に発表した月報によると、2011年の世界石油需要見通しは日量8794万バレルと前月見通しから同11万バレル上方修正した。需要の伸びは同139万バレルへと同5万バレル下方修正された。OPECは、震災に伴う日本の需要減少は僅かであり、市場への影響は限定的であるとの見解を示している。一方供給面では、2011年の非OPEC加盟国の産油量は同5284万バレル(前月見通し同5279万バレル)と上方修正した。なお、3月のイラクを除く11カ国の産油量は前月比69万0100バレル減の日量2659万5000バレルと4ヶ月ぶりの減少。リビアの供給混乱については、その大部分を他の加盟国の増産により穴埋めしているという。

「2月のLDPE輸入単価、安値トップ10」

2011年2月のLDPE輸入実績は次のとおり。輸入数量は前月比281トン減の778トン、輸入価額は1億6046万5000円となった。原産地別輸入数量の割合は、ベルギーが28%、中国が23%、韓国が15%、タイが14%、オランダが13%となっている。価額を数量で割り返した2月の輸入単価(CIF JAPAN)の計算値は、前月比16円高の206円/kg。貿易統計上のLDPE統計値は、汎用品と付加価値品との区別は出来ないが、税関別や国別に分けることで汎用品の輸入単価が概ね予想可能となる。貿易統計値およびそれを基に算出した単価の安値トップ10は、右表のとおり。なお、2月の通関レートは、1ドル=81.76~83.42円、日数による加重平均値は、1ドル=82.33円。

税関	国名	2011年2月		CIF JAPAN	
		数量 (kg)	価額 (1000円)	単価 (円/kg)	単価 (ドル/MT)
門司	米国	12,375	1,628	132	1,577 - 1,609
新潟	韓国	40,000	5,433	136	1,628 - 1,661
博多	韓国	14,000	1,937	138	1,659 - 1,692
東京	タイ	71,000	10,268	145	1,734 - 1,769
横浜	米国	14,996	2,180	145	1,743 - 1,778
博多	タイ	15,000	2,324	155	1,857 - 1,895
名古屋	タイ	24,000	3,728	155	1,862 - 1,900
横浜	ベルギー	219,100	37,530	171	2,053 - 2,095
清水	中国	11,600	2,153	186	2,225 - 2,270
大阪	韓国	14,500	2,761	190	2,283 - 2,329

(出所:財務省)

「2月の中国LDPE国別輸入数量トップ10」

LDPE

輸入先	2011年2月		CIF CHINA
	数量 (MT)	価額 (ドル)	単価 (ドル/MT)
合計	65,484	108,272,662	1,653
前月比	▼ 40,768	▼ 67,828,621	▼ 4
前年同月比	▼ 60,697	▼ 73,921,518	210
数量TOP10			
イラン	10,043	15,536,731	1,547
マレーシア	6,943	10,557,292	1,520
日本	6,149	9,968,773	1,621
サウジアラビア	5,869	9,198,753	1,567
ロシア	5,795	9,421,770	1,626
カタール	5,638	8,734,326	1,549
韓国	4,873	7,740,793	1,589
米国	4,276	8,595,054	2,010
タイ	4,137	7,023,411	1,698
ドイツ	3,170	6,714,318	2,118

参考

日本 輸入先	2011年2月		CIF JAPAN
	数量 (MT)	単価 (円/kg)	単価 (ドル/MT)
合計	778	206	2,505
TOP3			
ベルギー	219	171	1,510
中国	183	217	1,639
韓国	115	170	1,657
スポット市況 (\$/mt)	12月	1月	2月
CFR CHINA	1,644 ~ 1,676	1,659 ~ 1,701	1,698 ~ 1,726

(出所:中国海関総署)